

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 15 日現在

機関番号：33307

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21500611

研究課題名（和文） 障害者スポーツを支えるボランティアの参加動機と活動継続に関する要因分析

研究課題名（英文） Analysis of perceptions held by volunteers participating in sports activities for persons with disabilities

研究代表者

田引 俊和 (TABIKI TOSHIKAZU)

北陸学院大学人間総合学部・講師

研究者番号：90387845

研究成果の概要（和文）：

本研究では、障害者スポーツに携わるボランティアスタッフの意識の特性を把握することを目的に、継続的に障害者スポーツを支援している組織でのボランティア活動者を中心に量的な調査（アンケート、3年間で約2200件）を実施した。

調査分析の結果、同一の障害者スポーツ組織内で活動するボランティアスタッフにおいても、その立場や専門性、あるいは研修会等に受講歴によって障害者のスポーツ活動に対する意識の特徴に有意差があることを確認した。

研究成果の概要（英文）：

This paper analyzes the motives for participation among volunteers taking part in sports activities for persons with disabilities. A questionnaire survey was mailed to approximately 2,200 volunteer members in three years.

The results suggest that different types of volunteer members have different levels of recognition regarding their reasons for participating in sports activities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、スポーツ科学

キーワード：障害者スポーツ

1. 研究開始当初の背景

わが国における障害者スポーツの歴史は、東京オリンピックとともに開催されたパラ

リンピック（1964年）が一つの起点でもあるといわれ、これを機に障害者の身体活動はそれまでの医学的なリハビリテーションを目

的としたものだけではなく、競技性を持たせたスポーツ活動という考え方も取り入れられるようになった。その後、財団法人日本身体障害者スポーツ協会の発足（1965年）、身体障害者スポーツ大会（現全国障害者スポーツ大会）の開催、国内で開催された長野冬季パラリンピック（1998年）での日本選手団の活躍もあり、障害者のスポーツ活動は広がりを見せるとともに市民権を獲得してきている。

また、障害者基本計画（2002年）では、障害者スポーツをより促進させることを目的に、障害者の利用しやすい施設・設備の整備の促進及び指導員等の確保を図る、全国障害者スポーツ大会の充実に努め、民間団体等が行う各種のスポーツ関連行事を積極的に支援する、日本障害者スポーツ協会を中心として障害者スポーツの振興、特に、普及が遅れている精神障害者のスポーツの振興に取り組む、と目標が掲げられ、より一層の障害者スポーツの推進が示されていた。

一方、障害者のスポーツ活動を展開、継続していく上では多くのスタッフ等が必要となる。指導・コーチングや審判、競技役員のほか、スポーツ活動に必要な環境を整備、維持するためのマネジメント的な支援も不可欠となる。ただ、多様なスタッフの多くは専門的、職業的な関わりではなく、「ボランティア」という形で活動に携わっていると考えられる。ボランティアスタッフの意識や存在が、選手（障害当事者）のスポーツ活動の成果や継続性などに何らかの影響を与えていることが推察され、良質な活動のためにはスタッフの意識の特徴を把握することが求められる。

2. 研究の目的

障害者スポーツに携わるボランティアス

タッフの意識の特徴やニーズ、活動上の課題を把握し、より良質な障害者のスポーツ環境の整備と、障害者スポーツ組織の運営マネジメント等に貢献できる実証的な資料を示すことを目指す。

3. 研究の方法

具体的には次の3点について、障害者スポーツ組織に関わるボランティアスタッフ等への量的調査（アンケート）、および分析を行うことで、研究目的の遂行を目指した。

（1）障害者スポーツに携わるスタッフの意識の特徴、および課題を明らかにする。とくに「参加・継続要因」「情報入手・収集」と、「役割責任や資格・専門性」との関係の分析、および実践上の課題を検討する（2009年度約1000件）。

障害者のスポーツ活動を支援する団体、組織の関係者を調査対象とする。

（2）スポーツ活動に参加する障害当事者の家族もふくめ、知的障害者のスポーツ活動に対するニーズ、および課題の把握を試みる（2010年度約1000件）。

ここで調査対象とした知的障害者については、その障害特性により本人等から直接回答を得るための適切な手法が確認できないため、本研究においてはボランティアだけでなく家族・保護者を含めた関係者を調査対象とする。

（3）普及が遅れているとされる精神障害者のスポーツ活動の実態、および課題を明らかにする（2011年度約200件）。

おもに精神障害者が利用する社会復帰施設を対象に量的な調査、分析を行う。

4. 研究成果(1)

調査分析の結果、障害者スポーツ組織で活動するボランティアスタッフの参加動機に

に関して、「社会貢献」「コミュニケーション」「スポーツ活動」「アスリート（障害がある当事者）支援」「依頼・報酬」という5の因子を確認した。このうち、社会貢献、コミュニケーション、スポーツ活動、アスリート支援の4因子では、当該障害者スポーツ組織での立場・役割によって意識レベルに有意差がみられた。なお、この分析での立場・役割は、「理事・役員等」「コーチ」「コーチ以外のボランティア」「ファミリー（障害がある当事者の家族）」の4群とした。

具体的には、「社会貢献」因子ではファミリーは他の参加者と比べて低く、「コミュニケーション」因子では理事・役員はどの群よりも低いことが確認された。また、「スポーツ活動」因子ではコーチが有意に高く、「アスリート支援」因子では理事・役員が低いことを確認した。

研究成果(2)

知的障害がある人たちがスポーツ活動に参加する理由について、障害者スポーツ組織の関係者の意識の特徴を分析した。回答者が考える、知的障害があるアスリートがスポーツ活動に参加する理由として、「トレーニングプログラム」「健康・体力」「暫定的なスポーツ活動」「消極的な参加態度」「トレーニング成果」という5つの因子を抽出した。同一の障害者スポーツ組織で活動するスタッフにおいても、その役割・立場、あるいは研修会等に受講歴によって意識の特徴に有意差があることを確認し、運営マネジメントのための基礎資料を作成した。(図1～図5)

なお、この分析での立場・役割は、「理事・役員等」「コーチ」「コーチ以外のボランティア」「当該組織で何らかの役割等があるファミリー（障害がある当事者の家族）」「特に役割などないファミリー」の5群とした。

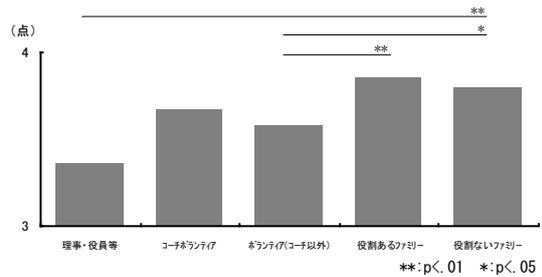


図1：「トレーニングプログラム」因子と役割・立場の関係

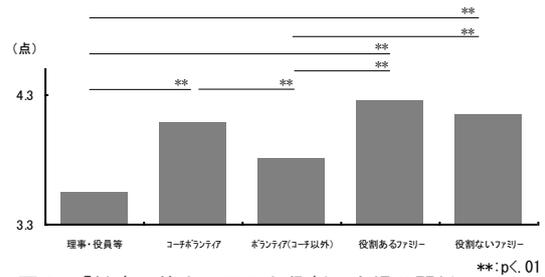


図2：「健康・体力」因子と役割・立場の関係

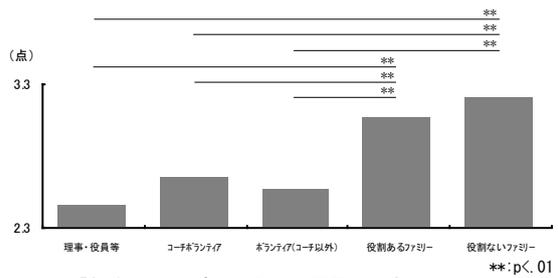


図3：「暫定的なスポーツ活動」因子と役割・立場の関係

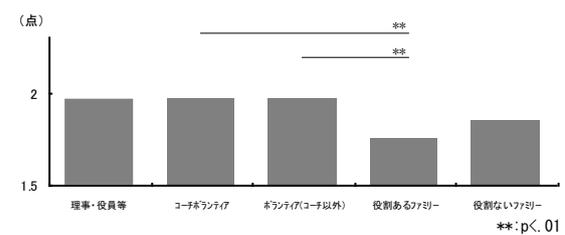


図4：「消極的な参加態度」因子と役割・立場の関係

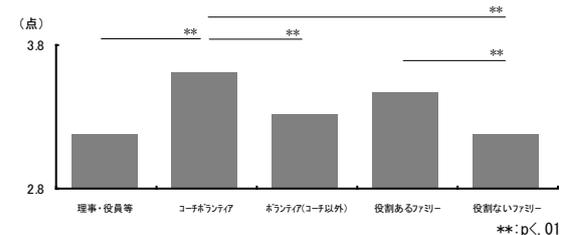


図5：「トレーニング成果」因子と役割・立場の関係

研究成果(3)

また、精神障害者のスポーツ活動については、実施に向けたニーズはあるものの、会場の確保や会場までの移動に関する課題が重要であることを確認した。実施者、あるいは支援者はボランティアではなく、施設職員が大部分であった。

具体的には、おもに精神障害者が利用する社会復帰施設でのスポーツ活動の実施状況については、定期的または不定期に行っている割合は7割近くになっており、活動の実施、あるいは支援はボランティアではなく、多くは施設職員が担っている。

加えて、全般的に「スポーツ活動は利用者の健康維持に効果がある」という意識は高いものの、「障害（症状）に合わせたプログラムが必要」「活動のために今以上の設備・施設の充実が必要」「スポーツ活動の指導（支援）方法が知りたい」といったニーズも高いことを確認した。

なお、今後、精神障害者のスポーツ活動の調査研究を継続していくうえでは、「スポーツ活動」の定義を明確にする必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

田引俊和、松本耕二、渡邊浩美、知的障害のある人たちがスポーツ活動に参加する理由、北陸体育学会紀要、査読有、第48号、2012、13～21.

[学会発表] (計6件)

- ① 田引俊和、精神障害者のスポーツ活動に関する調査研究、日本アダプテッド体育・スポーツ学会、2011年12月、茨城県立医療大学

- ② 田引俊和、松本耕二、渡邊浩美、障害者スポーツ参加者の意識の特徴に関する分析、日本体育学会、2011年9月、鹿屋体育大学

- ③ 田引俊和、松本耕二、渡邊浩美、Motives for participation among Special Olympics volunteers, 18th International Symposium On Adapted physical Activity、2011年7月、University Paris West Nanterre La Defense

- ④ 田引俊和、松本耕二、渡邊浩美、障害者のスポーツ活動に携わるボランティアスタッフの意識の特徴に関する一考察、日本アダプテッド体育・スポーツ学会、2010年12月、富山大学

- ⑤ 田引俊和、松本耕二、渡邊浩美、障害者スポーツを支えるボランティアスタッフの意識の特徴に関する分析、日本体育学会、2010年9月、中京大学

- ⑥ 田引俊和、松本耕二、渡邊浩美、Analysis of perceptions held by volunteers participating in sports activities for persons with disabilities、11th International ASAPE Symposium、2010年8月、Sebelas Maret University, Central Java, Indonesia

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田引 俊和 (TABIKI TOSHIKAZU)
北陸学院大学人間総合学部・講師
研究者番号：90387845

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：